

アンドリュー・ワイエス

20 世紀のアメリカを代表する写実主義の画家。父親は挿絵画家で、幼い頃より虚弱体質であったワイエスは水彩画を習い、描いていた。ワイエスの的確なデッサン力とテクニックはこの幼少期に培われ、20 世紀美術の写実表現に大きな功績を残した。作品中には黒人男性や障害をもつ女性が多く描かれている。当時のアメリカは人種差別の激しい時期であったが、ワイエスの作品からは、彼の弱者に対するやさしい眼差しが感じられる。代表作「クリスティーナの世界」でモデルとなった近所に住むクリスティーナは足に障害のある女性で、この作品は彼女が這って家に帰ろうとする様子を描いている。腕だけで移動する彼女の手が大きく描かれた作品である。